地理Ａ，地理Ｂ

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

地　　理　　Ａ

１　前　　文

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）は，大学（専門職大学，短期大学，専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に，高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の程度を判定し，大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としており，この目的自体は，従前の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）と基本的に同様である。

一方，共通テストでは，平成21年告示高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）において育成することを目指す資質・能力を踏まえ，知識の理解の質を問う問題や，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題することとなっている。地理の問題作成方針にも，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けて問題を作成すると示されている。

なお，評価に当たっては，14ページに記載の８つの観点により，総合的に検討を行った。

２　内　容・範　囲

第１問　地図の読み取りと活用，日本の自然災害に関して，地図や資料等から地理的諸事象に関する情報を読み取り，地図やGISと自然災害や防災に関する知識を基に，人間と自然環境との相互依存関係などに着目して，諸地域の自然環境や自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問１　扇状地が示された地理院地図から地形や土地利用などの情報を読み取り，扇状地の特徴に関する知識を基に，地域の特徴について考察する良問である。

問２　関東地方を事例として，夏季に気温が上昇する要因を考察する問題。地図から地形条件を読み取り，二つの現象に関する知識を基に，気温の上昇する要因について考察する良問である。

問３　GISで作成した地図とグラフから人口分布などの情報を読み取り，問題文に示された「考え方」を基に，複数の立場から「役所の支所」の配置について考察する良問である。

問４　ハザードマップと３Ｄ地図から火山災害に関する情報を読み取り，サ～スの３地点における火山災害の危険性について考察する問題。

問５　造成された住宅地の断面のモデル図を読み取り，問題文中の自然災害が起こる可能性がある宅地について考察する良問である。

問６　四つの自然環境の多様な機能をいかした防災・減災の取組事例に関して，手段と結果の因果関係について考察する問題。

第２問　世界の生活・文化に関して，地図や資料から読み取って得た情報を基に，各地域にみられる特色を地理的な見方や考え方を働かせて考察する問題で構成されている。

問１　ジャガイモについて示された二つの主題図を読み取り，ジャガイモに関する生産や消費

の知識を基に，各国の消費や食文化とその背景について考察する問題。

問２　３地域の気候の特徴を読み取り，３種類の家畜の特徴と用途に関する知識を基に，家畜と人々の生活の関わりについて考察する問題。

問３　地図に示された３地域で人々が風とどのように共生してきたかに関して，自然環境とそれに対する伝統的な住居の工夫などについて考察する問題。

問４　アラビア半島にある世界文化遺産の古都の景観写真から情報を読み取り，伝統的な住居に関する知識を基に，乾燥地域の住居や生活について考察する問題。

問５　写真から建築物の特徴を読み取り，ヨーロッパの宗派・言語の分類に関する知識を基に，ヨーロッパの民族・宗教について考察する問題。選択肢の形式は新しい。

問６　二つの資料を読み取り，オーストラリアの多文化社会に関する知識を基に，オーストラリアにおける移民の増加による社会の変化について考察する問題。

第３問　東アジアを事例地域として，多様な資料を読み取り，東アジアの生活・文化と各国の結びつきに関する知識や理解を基に，思考力等発揮しながら解答する問題で構成されている。

問１　平均気温の年較差と最多雨月と最少雨月降水量のグラフを読み取り，標高と気温，隔海度と降水量の関係の知識を基に，東アジアの各都市の気候について考察する問題。

問２　自然環境と農業生産，食物禁忌に関する知識を基に，東アジアにおける食文化の地域性について多面的に考察する問題。使用されている写真はいずれも初見となるが，興味を引く。

問３　米と小麦の一人当たり年間供給量の経年変化の特徴を読み取り，日本，韓国，中国の経済水準と穀物消費の関係や農業政策の知識を基に，３か国の食の変化について考察する問題。

問４　経済水準や産業の特色，食料自給率等の知識を基に，日本，韓国，中国の３か国間の貿易の特徴について考察する問題。

問５　日本のサービス貿易に関する資料を読み取り，各国・地域の産業の特色に関する知識を基に，日本と東アジアの国・地域間における知的財産使用料と文化・娯楽等サービスの収支の特徴について考察する問題。

問６　三つの国・地域の訪日旅行に関する二つの資料を読み取り，地理的近接性や訪日目的等に関する知識を基に，訪日旅行者の動態について考察する問題。

第４問　食料問題，都市問題，環境問題，資源問題等の地球的課題に関して，図表や写真などを読み取り，知識や理解を基に，各課題について考察する問題により構成されている。

問１　食料問題に関して，穀物消費量割合が示されたグラフを読み取り，途上地域は先進地域よりも穀物の食料用途の比率が高いことに着目して，各地域の穀物利用について考察する問題。

問２　日本の食事に関する資料を読み取り，フードマイレージやフェアトレード，さらに輸入食材が増える背景について，概念的な理解を問う工夫された問題。日本の食料自給率の低さに着眼して課題解決を示唆する良問。

問３　メガシティに関する資料を読み取り，人口増加と都市増加率の地域的差異に関する知識を基に，メガシティ数の変化について考察し，途上国の都市問題に関する知識について問う良問。

問４　自動車保有台数と窒素酸化物排出量に関する資料を読み取り，３か国の社会，経済的変化に関する知識を基に，モータリゼーションと環境問題の関係について多面的に考察する良問。

問５　タンタルと金の産出国の主題図から産出国の偏りを読み取り，鉱物の分布と採掘をめぐる課題について考察する問題。教科書等で取り上げられないレアメタルが取り上げられてい

るが，他の資源で学んだ知識を活用して解答することができる。

問６　先住民族の文化に関して，各地域における自然環境や産業に関する知識を基に，各地域における人々の暮らしについて考察する問題。

第５問　北海道苫小牧市とその周辺地域の地域調査に関して，地形図や統計などの多様な資料を読み取り，地域内や地域外との結びつき，地域の成り立ちや変容について考察し，また，地方都市に共通する課題に関する知識を基に，苫小牧市の課題を解決するための方策を考察，構想する大問である。「地理Ｂ」との共通問題である。

問１　地域調査の事前調査において，地理院地図の情報を読み取り，地域の自然環境や市街地の立地などについて考察する問題。

問２　複数の年代の河口付近の地形図を読み取り，河川や海岸地形に関する知識を基に，屈曲した流路とその変化の要因について考察する良問。

問３　苫小牧港と室蘭港の陰影起伏図など複数の資料を読み取り，苫小牧港の整備と苫小牧市の発展について考察する問題。会話文には次の問４を解くためのヒントも含まれている。

問４　苫小牧市の製造品出荷額に関する二つの統計を読み取り，工業の立地や発展に関する知識を基に，苫小牧市の工業の特徴とその変化について考察する問題。

問５　苫小牧市内の二つの住宅地区に関して，写真や説明文から各地区の特徴を読み取り，各地区の年齢別人口構成の変化を考察する良問。

問６　苫小牧市の中心市街地の空洞化に伴う課題について，人口増減の主題図を読み取り，地方都市に共通する課題に関する知識を基に，想像力を働かせながら解決策を構想する問題。

３　分　量・程　度

第１問　大問全体としては標準的な難易度の設問で構成されている。全体的に，資料から読み取った情報と知識を基に考察したり，因果関係を論理的に考察したりする問題となっており，出題に工夫が感じられる。特に問２と問３は，学習して身に付けた地理的な見方や考え方を働かせて，資料から読み取った情報と知識や条件を基に考察する良問である。全体の分量や文字数は適切であるが，問３は問題文がやや長い。

第２問　大問全体としては標準的な難易度の設問で構成されている。問５は，複数の思考プロセスを経て考察する必要があるが，分類表の様に示された選択肢から解答するようになっており，工夫が見られる。分量や文字数は適切である。

第３問　大問全体としては標準的な難易度の設問で構成されている。問３は複数の指標について経年変化の特徴を読み取り，東アジアの国々について多面的に考察することを求められるため，やや難易度が高い。問５は二つのサービスに関する国際収支が取り上げられ，指標の概念的理解と判別が地理Ａとしてはやや難しい。設問数や分量，文字数は適切である。

第４問　全体として地図や図表などを読み取り，事実的な知識や理解を基に地理的事象を考察することが求められ，やや難易度が高い。問３はメガシティ数の予測値について三つの地域の判定を求められるが，先進地域と途上地域の都市増加率の違いに着眼することが求められ，地理Ａとしてはやや難易度が高い。分量や文字数は適切である。

第５問　大問全体としてはやや難易度の高い大問である。問２は，空欄アの沿岸流と潮汐の判別が受験者には難易度が高く，仮に空欄アがなくても問題として成立するなど，検討を要する。問４は苫小牧市の工業についての細かい知識が要求されるようにみえるが，受験者が学習したであろう知識を基に考察すれば正解に至るように工夫されている。しかし地理Ａの受験者には難易度は高い。分量については，場面設定の問題であることをふまえれば適切である。

4　表　現・形　式

第１問　多様な資料や知識を基に考察する問題や問題文に含まれる条件を読み取る問題等，全体的にバランス良く多様な形態で出題されている。問３の図３と問４の図６は図が小さく，空間的広がりを掴みづらかった受験者がいたと思われる。

第２問　生活文化について，様々な資料を用いてバランスよく出題されている。問２と問３は文章組合せ６択の問題であり，同じような出題形式が連続しているように感じられる。問２の図２は，雨温図等に比べて，出題の意図に合わせて思考を促すよく考えられた図である。問５は，選択肢の形式は目新しく工夫が見られる。

第３問　地理研究部の高校生が東アジアの暮らしについて調査するという設定であり，授業の学びを生かして課題を追究する場面設定となっている。問題作成方針に沿ってはいるものの，生徒の主体的な学習の成果が提示されるような資料があると，より臨場感が表れる。全体的にグラフや地図は読み取りやすく適切である。ただし，問２で用いられた写真は麺の形状を読み取ることができず，キャプションを必要としない写真が望まれる。

第４問　問題全体を通じて使用されている図表は題意を読み取りやすく，適切である。問３のメガシティは，受験者にはあまりなじみがない素材であるが，高等学校の学習で身に付けた知識から類推することができるよい問題となっている。一方問４では，サとシのグラフが重なっており，経年変化を峻別する上で誤解を生じさせる可能性がある。

第５問　生徒が事前調査，現地調査をする場面を設定しており，その追究の過程は実際の高等学校の授業等の展開事例に近いものであり，適切である。問題を解いていく上で，図版の大きさや見やすさも適切である。

5　ま　　と　　め（総括的な評価）

全体として，知識の理解の質や思考力・判断力を発揮して解答する問題で構成されており，問題作成の方針に則った出題であった。また，いわゆる「場面設定」の問題では，実際の高等学校の授業等での過程に沿った形で追究が深められている。さらに，一部の問題では必履修科目の世界史や公民科目での学びの内容が思考の過程で必要とされるなど，幅広い学びを重視していることがうかがわれ，大学教育の入口段階における資質能力を測るテストとしての位置づけが明確に示されている。このことは，高等学校における授業改善に対するメッセージとして真摯に受け止めたい。

ページ数，設問数はいずれも昨年同様であるが，平均点は昨年度に比べて低下した。決して難問ではないが，読み取りに時間を要する資料が増加したことも一因と言えるかもしれない。地理Ｂに比べて受験者が少なく，しかもその受験者の学力は多様であることから，難易度の調整は非常に難しいことが予想されるが，一定の配慮をお願いしたい。問題作成の方針に基づく問題の質の面から考えると，難易度は適切であったと言える範囲内だろう。地図をはじめ，各種資料を用いて考察していく地理ならではの出題の特徴を生かしつつ，引き続き次の２点についてお願いしたい。

一つ目は，地理Ａでは作業的，体験的な学習を重視し，地理的技能を高めることが学習のねらいの一つであることから，細かな知識や概念を避けた問題となるように配慮いただきたい。二つ目は，普通科と比べて授業時数の限られる実業系高校の受験者もいることから，共通テストを通じて地理の学びが深まるような問題，たとえば思考の過程をブラックボックスにするのではなく，図表をどう読み取るかなど，比較的単純な読み取り問題などについても検討いただきたい。

いずれにしても良問が多く，しかも日々の授業改善につながるようなメッセージを込めた問題を作成された諸先生方に改めて謝意を表したい。

地　理　Ｂ

１　前　　文

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）は，大学（専門職大学，短期大学，専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に，高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の程度を判定し，大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としており，この目的自体は，従前の大学入学センター試験（以下「センター試験」という。）と基本的に同様である。

一方，共通テストでは，平成21年告示高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）において育成することを目指す資質・能力を踏まえ，知識の理解の質を問う問題や，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題することとなっている。地理の問題作成方針にも，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けて問題を作成すると示されている。

なお，評価に当たっては，14ページに記載の８つの観点により，総合的に検討を行った。

２　内　容・範　囲

第１問　世界の自然環境と災害に関して，資料や地図から地理的諸事象に関する情報を読み取り，地形や気候，自然災害に関する知識を基に，場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して，諸地域の自然環境や自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問１　火山の分布を読み取り，プレートの沈み込み帯の構造に関する知識を基に，大陸縁辺部の大陸棚の分布について考察する良問である。

問２　二つの河川の地図と年平均流量，河道の標高割合に関する表を読み取り，地形と気候に関する知識を基に，流域の大地形の分布や河口の地形に見られる地形の特徴を考察する問題。

問３　アジアの４河川の流域の地図と植生分布割合の表を読み取り，気候と植生に関する知識を基に，河川流域の自然的特徴について考察する問題。

問４　オーストラリアの気温と降水量の等値線図を読み取り，隔海度や気圧帯の年変化に関する知識を基に，季節変化の特徴について考察する良問である。異なる数値を「＋・－」の記号で表現するなど工夫が凝らされている。

問５　アフリカの地域区分ごとの自然災害の発生数に関する資料を読み取り，プレートや大地溝帯，熱帯低気圧の発生域などに関する知識を基に，アフリカの自然災害の発生分布の規則性や傾向性について考察する問題。

問６　日本の土砂災害と雪崩の発生する地域の分布に関する資料を読み取り，各自然災害の特徴に関する知識を基に，各季節における自然災害の発生と分布について考察する問題。

第２問　資源と産業，環境問題に関する大問。各種統計資料の読み取り，基本的な知識とその活用が求められる。資源とその持続可能な利用に関して，実際に授業等で生徒が主体的に探究する場面を設定し多面的・多角的に考察する設問から構成されている。

問１　炭田と油田の分布図からそれぞれの分布の特徴を読み取り，石炭と石油の生産や消費といった知識を基に，主要な資源の偏在性等の特徴に関して考察する問題。

問２　地域別の人口とエネルギー消費の変化に関する資料を読み取り，世界の地域別の人口や

産業構造の変化に関する知識を基に，世界の地域別の資源利用の特徴について考察する問題。

問３　３か国の一人当たりGDPや一人当たり二酸化炭素排出量の変化に関する資料を読み取り，特徴的な国に関する産業構造の変化や資源利用等の一般的な共通性の理解を基に，各国の経済発展と環境への影響について考察する良問である。

問４　各国の化石燃料と再生可能エネルギーに関する表を読み取り，各国のエネルギー利用の基本的な知識を基に，経済発展や人口規模が環境に及ぼす影響について考察する問題。各国の大まかな人口の知識の有無とその活用を判別できる良問である。

問５　四つの指標が示された図を読み取り，３か国の経済状況や森林資源の利用に関する知識を基に，各国の森林資源とその利用の特徴について考察する良問である。

問６　生徒の探究活動の成果発表を想定した場面設定で，循環型社会に関して，資料から人口増加と資源利用から生じる課題を読み取り，課題解決に向けた取組みについて考察する問題。

第３問　村落･都市と人口に関して，GISを活用した地図や統計地図など多様な資料を読み取り，時間軸や空間軸に着目して，村落・都市や人口に関する地理的諸事象について多面的・多角的に考察する設問で構成されている。

問１　砺波平野の空中写真を読み取り，伝統的な散村の変容とその要因を考察する問題。伝統的な日本の村落の実態と変容に，価値ある学びがあることを伝える好視点の出題。

問２　ある地域のメッシュマップで示された人口分布と，公共施設の立地に関する資料を読み取り，受験者の生活感覚などを基に，施設の分布の規則性について考察する良問である。

問３　２時点間における諸事象の変化をGISを用いた地図から読み取り，ジェントリフィケーションに関する概念を基に，貧困率の高かった地区の再生について考察する良問である。

問４　主要空港に到着する航空便に関するグラフを読み取り，ヨーロッパ各国の歴史や経済に関する知識を基に，各都市と世界の各地域との結びつきを考察する良問である。都市と国，世界の地域とスケールを変えて考察するように工夫されている。

問５　シンガポールとドイツにおける二つの人口ピラミッドを読み取り，両国の移民の職業や国全体の年齢構成などの社会状況に関する知識を基に，両国の人口構成の特徴について考察する良問である。

問６　出生率と死亡率を示したグラフを読み取り，各国の経済発展や人口転換に関する知識を基に，各国の出生率と死亡率との関係と変化について考察する問題。

第４問　ラテンアメリカ地誌に関して，多様な資料を読み取り，地域に関する知識や理解を基に，思考力，判断力，表現力等を測る設問で構成されている。Ａでは，ラテンアメリカの産業構造の変化を総合的に問い，Ｂではチリとニュージーランドを比較しながら地理的事象を多面的・多角的に問うている。

問１　ラテンアメリカの南・北半球の二つの河川を示した地図と月別降水量のグラフを読み取り，降水分布と季節変化に関する知識を基に，地域の自然環境の特徴について考察する良問である。

問２　各国の発電におけるエネルギー源割合のグラフを読み取り，ラテンアメリカの地形と気候に関する知識を基に，自然環境や資源の分布と発電方法の傾向性について考察する問題。

問３　ブラジルの農業に関する資料を読み取り，産業構造の転換に関する知識を基に，ブラジルの農業の発展とその背景について考察する問題。資料に示された農産物の輸出額という絶対量と輸出に占めるコーヒー豆の割合という相対量を読み取る技能が求められる問題。

問４　ラテンアメリカの３か国の経済に関する散布図を読み取り，３か国の社会や経済の特徴とその背景に関する知識を基に，ラテンアメリカの経済格差について考察する問題。

問５　環太平洋地域の同緯度に位置する両国の自然環境について，大地形の成因や恒常風の影響等に関する知識を基に，両国の自然条件の特徴における類似点と相違点について考察する問題。

問６　チリとニュージーランドの主要な輸出品に関する資料を読み取り，両国の産業や他国との関係とその変化に関する知識を基に，環太平洋地域における貿易の変化を考察する良問である。

第５問　苫小牧市周辺の地域調査に関する大問。「地理Ａ」との共通問題。様々な地図や写真，グラフなどを読み取り，自然環境，産業，都市問題など幅広い分野に対する知識を基に，地域について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問１　地域調査の事前調査を想定し，地図を読み取り，地域の景観を考察する問題。

問２　海岸地形の変遷を地図と会話文から読み取り，沿岸流や河川流量の季節変化に関する知識を基に，地形の形成要因について考察する問題。

問３　苫小牧港と室蘭港について，様々な地図やグラフなどの資料を読み取り，両者を比較しながら必要な情報を読み取る技能や両港の特徴とその背景を考察する問題。

問４　苫小牧市における業種別製造品出荷額の経年変化の資料を読み取り，工業の発達と種類，立地などに関する知識を基に，苫小牧市の工業の特徴について考察する問題。

問５　成立条件の異なる住宅地区の特徴に関する資料を読み取り，各地区における居住者の特徴に関する知識を基に，各地区の人口構成の変化を考察する良問。

問６　苫小牧市の人口分布に関する地図を読み取り，地方都市共通の課題である「中心市街地の衰退」に対する解決策を構想する良問。

３　分　量・程　度

第１問　全体として資料に表された諸事象の理解を問う標準的な難易度の大問となっている。問１はプレートの沈み込み帯の構造を読み取る題意にたどり着けなかった受験者もあったと推察される。問６は雪崩や土砂災害の発生する季節を判断するための根拠がやや想起しにくく，生活地域による差もあったと考えられる。資料や文章量ともに適切である。

第２問　資源と産業に関する基本的な知識を問う標準的な難易度の大問であったが，やや易しい問題もみられた。問４は，各国のおおよその人口に関する知識を必要とする問題で，学習した内容の差が顕著にみられると考えられる。統計資料を様々な方法で示し，背景となる知識や理解を問う大問である。

第３問　標準的な難易度の設問で構成されている。問１は村落の詳細に関わる実態や変容が問われており，「あぜ道」の具体的イメージは，体験的な学びの経験なども関わってくると考えられ，特に都市部の受験者にはイメージしづらいものであったかもしれない。問３は，再開発前後の変化を読み取る資料が適切な分量で扱われている。

第４問　修得した知識を活かすことができ，解答しやすい適切な難易度の設問で構成されている。問４は，見慣れない指標の根拠となる知識を想起するまでにやや時間がかかると思われ，該当地域に対する理解の深さも求められた。設問数，文字数ともに適切である。

第５問　読み取りやすく興味深い資料が提示され，標準的な難易度の設問で構成され，分量においても適切なものである。問４では，苫小牧市は原料指向型工業である製紙・パルプ工業の代表例であるが，その知識は受験者にとってやや難易度が高い。問５は，年齢構成の変化を資料から読み取りながら，異なる住宅地区の特徴を考察する設問で思考力の差が表れたと考えられる。

4　表 現 ・ 形 式

第１問　世界の自然環境に関する諸事象について，様々な資料を用いて考察をするための多様な図表が用いられており，国境の有無や記号によって考察を促す工夫もなされており適切である。ただし，問１のアとイの判別のように現実とは異なる誤りの選択肢を設ける場合には，違いをより明確にするなど工夫の余地がある。

第２問　地球的な課題である持続可能な資源利用についてグループで探究する場面設定であり，全体を通して資源利用の在り方について生徒が主体的に探究するプロセスが示されており，適切である。実際の授業場面においても，地理的な諸課題に取り組む際には，資料収集から図化，考察，発表に至るプロセスを経るため，現実場面に即した適切な出題形式である。

第３問　村落・都市と人口をテーマに地理的事象を理解するための様々な資料を用いて，知識とその活用を求め，多面的に考察する出題形式で適切である。問２の人口分布をメッシュマップで示し，公共施設の分布を重ねた地図や，問３のジェントリフィケーションが見られる地図は高等学校でのGIS学習に応用可能で，様々な示唆に富んでいる。

第４問　ラテンアメリカの地誌とチリとニュージーランドの比較地誌をテーマとしており，地図やグラフなど多様な資料が用いられることで，地域的特色の理解や地域間の結びつき，構造や変化について問う設問構成となっており適切な出題形式である。

第５問　北海道苫小牧市における地域調査を切り口として，地域の自然環境や産業構造と生活様式の変化，地域課題への取組みに関して，生徒が入手可能な資料を基に考察する場面設定は，探究活動の過程を再現しており適切である。一方で，冒頭に地域を概観する地図を示すなど図表の配置を工夫するとともに，対象地域の知識がない受験者が正答できる問題形式を求めたい。

5　ま　　と　　め（総括的な評価）

問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿った良問が多い。特に，高等学校の教科書で学ぶレベルの知識を基本としつつ，大学教育や社会生活の中で必要とされる力，すなわち様々な知識を結びつける深い理解，資料の読解を通して発揮される思考力・判断力・表現力等が試される試験となっている。

第２問と第５問で場面設定がなされ，特に第２問は，これまでの出題形式と比べてテーマ性の強いものであったが，それだけに授業において，いかに資料を読み取り，まとめていくかなどの示唆に富んでいる。第２問が資源・エネルギーに特化した大問となったが，全問題を通しての分野のバランスが保たれ，高等学校で学習した事項を余すところなく網羅される工夫がなされている。また，第２問，第５問とも問６で学習のまとめとして課題や解決策を提示する場面を設け，複数の正解が想定される中で地理的な見方を基に文脈を捉え判断させている点も特筆したい。

全体的には適正な難易度であったものの，昨年に引き続き文字数が多いことに加え，全ての問題に受験者にとって初見となる資料が付され，これらを着実に読み取り，多面的・多角的に考察することが求められ，解答に相当の時間を要する試験であったといえる。なお，学習量に比して高得点が取りにくい傾向は例年通り続いており，この点については改善をお願いしたい。また，日常的な生活感覚を基に考察させる問題は，地理学習の魅力に結びつくもので歓迎されるが，受験者の居住地域による感覚の差が解答に影響しないよう，更なる工夫をお願いしたい。

全体を通して，豊富で工夫を凝らした資料の提示，解答しながら学べる出題形式などが随所に見られ，高等学校における授業改善の指針となる試験であった。